令和２年２月 27 日（木）学校運営協議会

令和２年度　学校評価アンケートについて

【生徒】

○全体に関わる内容（1）

「学校では安心でき,楽しく過ごせる」９３．５⇒９４．１

① 確かな学力に関わる内容（2～6）

5　令和３年度から本格実施される新学習指導要領において「主体的，対話的で深い学び」が言われている。また，社会に開かれた学びがキーワードになっている。その中で全ての教科,領域で小集団を活用した学習が組み入れられている。しかしながらその話し合いや議論がどれだけ「学び」につながっているかの検証，研究が求められている。今年度，道徳教育の文科省の研究指定を受けることを通して，ホワイトボードを使用するなど道徳の授業が突破口になった。

6　家庭学習については，塾での学びをどう考えるかにもよるが，家で学びたくなる，授業の在り方，興味を持てるようにする工夫など教える側の課題は求められている。２８．３％が「できていない」と答えているので，自主的に学ぶという姿勢は学校と家庭ともに指導していく必要があると考える。

② キャリアの視点（7）

7　７４％が肯定的なこと，「できていいない」が前期から見ても，６．４％減少している。これらから学校としての方向性を明確にすることが肝要だと考えた。
「松中ワーキング・ビジョン・プログラム」においては，以下のように考え今年度も取組を進めた。（昨年度より方法を変えた）

･･･学校での事前学習の一つに「働いている人に聞こう」というプログラムがあります。また，学校運営協議会では，学校支援の一つとして「仕事を通しての地域と生徒の交流プログラム」を検討してきました。目的を同一にする第１学年教職員と学校運営協議会の共催として，地域の方を講師にお招きし実施します。

仕事の魅力や苦労，社会的な役割，必要な適性や能力などを直接子ども達に語っていただき，子ども達の率直な疑問に答えていただき，子ども達が職業を通じて地域の方と交流する中で，自分らしい生き方・働き方を考え，将来につながる視点で進路の計画を立て，自分づくりをしていく一つの機会とすることを目的としています。

1年生ではこの後「ファイナンスパーク学習」，2年生では，「職場体験」を行い，3年生では進路決定という流れで取り組んでいる。どこの高校に進学するかを決める際に「どう生きるか」というキャリアの視点を意識させていくことをさらに進めていきたい。

③ 部活動，生徒会，学校行事に関わること（8～10）

8，9，10　前期に比べても充実感があると答えている割合が増えている。働き方改革で行事等を見直す中でこそ，やるべきことのねらいを明確にして取り組むというコンセプトで推進してきたことが良かったのではと思う。

④ その他（11～25）

13　「挨拶励行」については，年度当初から学校長をはじめ，折あるごとに話しているが，いまだに１４．６％が「あまりそう思わない」「そう思わない」という現状がある。来年度に向けてもこの点は強調して一桁台になるようにしたい。

16　一桁台に減少したことは喜ばしいことである。が，常にアンテナを張っておく必要がある部分である。生徒指導委員会，教育相談係会においては，昨年度よりさらにきめ細かに取り組んでいる。いじめや嫌がらせを起こしにくい学級，学年，学校の雰囲気を醸成していく。

17　スマホ，SNS 等については学校と家庭のみならず，警察等外部機関の啓蒙など社会が一体となって取組を推進することが求められている。挙がってくる問題行動の多くがこの使用から始まっている現状であることから今後も学校体制で取り組む必要がある。

18　「正しい生活習慣」が身についていないとする生徒が２７．６％いる。今年度は，教育委員会の研究課と連携して，保健委員会ともタイアップして主に朝食状況について調査した。今後も継続していきたい。

19　前期に比べても減少はしているが，「いじめアンケート」（年間 2 回）も含めて，素早く対応することが必要であることは言うまでもない。

20　３５回目の卒業式を迎えるなか各所に修繕の必要な場所が出てきている。予算との関わりのなか計画的に行っていきたい。生徒のボランティア活動の充実もすすめていく。

21　**読書については，国語科のみならず全教科領域で取組を進めてきたが，目立った成果は出ていない。３割近くある，「できていない」現状打破にするため，司書教諭含めて新たな取組を模索しているところである。**

22　HP や学級・学年便り，月 1 回発行の松尾だよりなど，常に内容精選，吟味が必要である。

24，25　19 とも一部関連しているが，教職員で共通理解していくとともに減少に向けてたゆまぬ努力が肝要である。

・朝の出欠点検時の様子
・「いじめアンケート」後すぐに学年打ち合わせ
・通常の学年会時の情報交換
・部活動顧問との連携

【保護者】

○全体に関わる内容（1）

「学校では安心でき,楽しく過ごせる」９５．９⇒９６．８

① 確かな学力に関わる内容（2～6）

3，5　前期に比べて減少している。クラス，教科によってさがあるのは言うまでもないが，学校全体として話し合っている。（教科主任会も開催）

4　基礎基本が何なのかという定義もあやふやであるとも言えるが，3 割以上の保護者がそう考えていることについて検証が必要である。

6　家庭学習に塾等を入れているかどうか質問そのものを変えていく必要もがあるが，テスト前以外の日常の学習の大切さを指導していくことが肝要である。

②キャリアの視点（7）

7　新学習指導要領の趣旨に則ってもこの部分は非常に重要である。3 年間を見通した取組の成果とも言えるが，さらに学校体制で推進していきたい。

② 部活動，生徒会，学校行事に関わること（8～10）

8，9，10　部活動入部率は 80.1%（5 月時点）で昨年度より 7 ポイント下がった。（２，３年生の男子が６０％台）ハンドボール（100 人前後）や吹奏楽（60 人前後）などに見られる特徴として，競技等に関わる意識の格差はある。概ね理解は得ていると思われるが，**「部活動ガイドライン」**に従い，実施してきた。「働き方改革」の視点からも従来取り組んでいたことの踏襲ではなく，ねらい，目的を明確にして新たな視点で取組を構築していかねばならない。

④ その他（11～25）

13　「挨拶励行」については，機会あるごとに学校長が話している。教職員自身が率先遂行していく意識をさらに持つことが肝要である。

17　前期に比べても「できていない」現状打破にするためが増加している。学校との連携は必要であるが，保護者として何が出来るか，しなければならないか検証していく必要がある。

19　最近のさまざまな「虐待」に関わるニュースを鑑みても，「出来ている」と答えていても常にアンテナを張って行くことが大事である。部活動をしている生徒は，普通 8 時から 17 時まで学校で生活をしていることから学校の責務は大きい。家庭とのたゆまぬ連携が子供を守ることに繋がるということを再認識することが第一歩である。

21　読書については，大人が見本を見せることが一番の近道であると考えている。

24，25　思春期の子供たちに対する大人の関わりについては，難しい側面があるからこそ学校・家庭・地域が子供を中心として「どう関わるか」「何ができるか」等意識を持って取組を進めることが大切である。